現場溶接の施工技術を学ぶ会

「若手溶接技能者・管理者向け座談会」を開催

全国から技能者・管理者約100人が参集

現場溶接の若手技能者ら約100人を集め、都内で19日、「若手現場溶接技能者・管理者向け座談会」が開催された。「現場溶接の施工技術を学ぶ会」（鋼構造出版、原産業、アサバによる共催）が企画したもの。現場溶接技能者の若手の育成を目的としており、開催に際しては現場溶接各社に事前アンケートを実施、その対処法や検査の注意点などを学ぶ内容とし、回答者として検査会社大手のジャストが協力した。当日は九州から北海道までの現場溶接会社から技能者・管理者が集まり、現場に関する検査を中心とした活発な質疑が行われるなど盛り上がりをみせた。

司会進行を担当した原常務（右）と宮崎次長

当日は関東の主要な現場溶接業者だけでなく、北海道、中部、関西、九州などの企業も参加。全体で100人を超える若手の技能者や管理者が参集した。

現場溶接は建築鉄骨構造の性能に直結する重要な分野であり、近年は建築物のさらなる高機能化、高性能化に伴い、厳格なスペックの技量が要求されてきている。また、人材確保とともに社員の教育と育成が大きな課題となっているが、業界の団体がなく、各社個別で対応しているのが実態で、「企業としてはもちろん、業界全体の技術水準の底上げを図るべき」の声が上がっていた。

横山氏

渡辺氏

「現場溶接の施工技術を学ぶ会」はそうした現状を踏まえ、特に現場溶接の技能者の若手育成に向けて施工技術に関する基礎的な知識の習得と向上を図る目的で発足。企画・開催に際しては現場溶接の実務に関する疑問点について各社にアンケートを実施し、具体的な対処法などの参考回答としては検査会社のジャストの協力を得て行われた。

冒頭のあいさつで、発起人の一人である鋼構造出版の大熊稔編集長がそうした開催趣旨と目的を説明、「本来、検査会社は現場の契約に基づいて検査を行っており、技術的な指導を行える立場にはない。このため企画は講習会ではなく、座談会とした。ただ、現場溶接と検査会社は現場で密接な関係にあり、相互の交流で技術が向上することも多いはず。意見交換を通じて業界の技術向上の一助になれば幸いだ」と述べた。

原社長

座談会では原産業の原正宏常務、アサバ鉄骨工事部の宮崎信一次長が司会を担当した。

会場ではジャストの横山孝治氏（執行役員・試験検査部長）と渡辺義之氏（試験検査部副部長）が検査会社の立場や役割、業務を説明し、この中で横山氏は「回答はあくまでもアドバイスであり、参考としてほしい」と述べ、現場ごとの設計特記仕様、現場施工要領書の確認行為や必要事項の反映の重要性を強調した。その上で溶接各社の事前アンケートに基づく技能者の評価、裏当金や溶接外観の事例と対処方法、欠陥の事例などについてアドバイスを行った。

引き続き、現場溶接における品質や技量に関するさまざまなテーマで参加者との活発な意見交換が行われ、盛り上がりをみせた。

閉会あいさつでは、原産業の原博之社長が「本日の座談会を実現させるために企画してから1年以上を要した。ご協力をいただいた関係者に厚く御礼申し上げ、特に本日ご参加くださったジャストの横山、渡辺両氏には感謝の気持ちでいっぱいだ。学んだことが何か一つでも日常の業務に生かされることを期待する。若手社員の教育と育成に関しては、業界全体の大きな課題として引き続き取り組んでいきたい」と事業活動を継続する方針を示した。

全国から100人超が参加

なお、当日に行った参加者全員を対象としたアンケート調査の結果によると、座談会の内容は「非常に良かった」「良かった」が83%、「今後もこうした勉強会に参加したい」との回答が80%を占め、現場溶接業界における教育事業のニーズや技術・知識の習得に関する関心の高さがうかがわれた。